

平成30年度
第1回 常磐市民センター運営審議会

日時 平成30年6月13日(水)

午前10時から

場所 常磐市民センター 会議室

次 第

1 開 会

2 委嘱状交付

3 自己紹介

4 正副会長選出

5 会長あいさつ

6 議 事

(1) 平成29年度利用状況について

(2) 平成30年度常磐市民センター運営方針及び重点目標について

(3) 平成30年度事業計画について

(4) 平成30年度定期講座募集状況について

(5) その他

7 閉 会

水戸市常磐市民センター運営審議会委員名簿

(敬称略)

	氏名	所属	役職	備考 (選出区分)
1	小林 富雄	社会福祉協議会常磐支部	支部長	市民活動団体
2	齋藤 通	ランド常磐の会	理事	市民活動団体
3	森田 聡	常磐小学校	校長	学校教育関係者
4	坂口 しづ子	常磐地区社会体育振興会	副会長	社会教育関係者
5	渡邊 みね子	常磐女性会	副会長	社会教育関係者
6	宮田 武範	常磐小学校PTA	元会長	家庭教育関係者

任期 平成30年4月1日～平成32年3月31日

水戸市常磐市民センター職員

所長 山田 斉

職員 大澤 美智子

職員 藤田 美智子

職員 掃部関 順子

(1) 平成29年度利用状況について

○市民センター一部屋別利用状況

室内区分		市民センター	社教団体	市	県	その他	合計	
ホール	件数	479	10	240	0	272	1,001	
	人員	11,914	577	4,275	0	4,855	21,621	
和室	件数	179	18	0	1	113	311	
	人員	2,129	273	0	4	938	3,344	
会議室	件数	197	94	18	1	415	725	
	人員	3,248	1,615	170	5	3,921	8,959	
内訳	会議室	件数	140	23	16	1	263	443
		人員	2,211	389	154	5	3,067	5,826
	多目的 ルーム	件数	44	41	0	0	25	110
		人員	897	928	0	0	185	2,010
	ボランティア ルーム	件数	2	0	0	0	109	111
		人員	18	0	0	0	519	537
	コミュニ ティルーム	件数	11	30	2	0	18	61
		人員	122	298	16	0	150	586
調理室	件数	9	1	0	1	22	33	
	人員	157	5	0	25	344	531	
図書室	件数						0	
	人員					108	108	
合計	件数	864	123	258	3	822	2,070	
	人員	17,448	2,470	4,445	34	10,166	34,563	
館外事業	主催事業	件数	49				49	
		人員	6,069				6,069	
	共催事業	件数	5				5	
		人員	1,574				1,574	
合計	件数	54	0	0	0	0	54	
	人員	7,643	0	0	0	0	7,643	
総計	件数	918	123	258	3	822	2,124	
	人員	25,091	2,470	4,445	34	10,166	42,206	

○月別利用人員

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
29 年 度	館内	2,297	2,297	2,743	2,514	1,827	2,841	2,620
	館外	17	100	166	5,352	0	62	1,528
	合計	2,314	2,397	2,909	7,866	1,827	2,903	4,148
28 年 度	館内	2,306	2,471	3,048	2,631	1,628	2,915	2,530
	館外	0	28	108	5,375	31	101	1,682
	合計	2,306	2,499	3,156	8,006	1,659	3,016	4,212

月		11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比較
29 年 度	館内	2,884	2,698	2,496	6,793	2,553	34,563	△ 211
	館外	147	93	53	93	32	7,643	△ 97
	合計	3,031	2,791	2,549	6,886	2,585	42,206	△ 308
28 年 度	館内	2,561	2,830	2,754	6,292	2,808	34,774	
	館外	152	90	63	63	47	7,740	
	合計	2,713	2,920	2,817	6,355	2,855	42,514	

○図書利用状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
29 年 度	貸出人数	4	0	1	3	4	2	1
	貸出冊数	15	0	2	9	8	3	2
28 年 度	貸出人数	2	3	2	4	4	5	2
	貸出冊数	3	6	3	11	35	9	5

月		11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比較
29 年 度	貸出人数	1	4	0	3	1	24	△ 6
	貸出冊数	2	26	0	6	2	75	△ 14
28 年 度	貸出人数	3	0	2	2	1	30	
	貸出冊数	4	0	3	8	2	89	

(2) 平成30年度 水戸市常磐市民センター運営方針及び重点目標

運 営 方 針

近年、人口減少社会や超高齢社会の到来をはじめ、都市化の進展、価値観の多様化、生活圏の拡大など、市民を取り巻く状況は大きく変化している。

こうした状況にあっても、市民が安心して暮らし、幸せを感じられるまちを形成していくためには、今後ますます地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進が必要となる。

常磐市民センターにおいては、地域コミュニティ活動の拠点として、その継続や発展に向けた支援に努めるとともに、生涯学習活動の拠点として、その充実や成果を生かす環境づくりに努め、さらには、東日本大震災での経験を踏まえ、地域防災活動の拠点としての機能充実を図っていくものとする。

重 点 目 標

1 地域コミュニティ活動の推進

(1) 地域コミュニティ活動の活性化

(ア) 常磐地区自らが地域の将来像や課題を共有し、特色のある地域づくりや課題の解決を進めることができるよう、地域コミュニティプラン実現に向けた取組への支援を促進し、水戸市ランド常磐の会を中心とした自主的な活動を推進する。

(イ) 各種コミュニティ団体等の活動を支援するとともに、NPO等との連携を促進しながら、よりよい地域づくりに向けた情報の共有化を進めるなど、地域コミュニティ推進体制の充実、連携強化を図る。

(ウ) 町内会・自治会への参加意識や自治意識の高揚を図るため、水戸市ランド常磐の会や関係機関と連携強化を図り、地域コミュニティ活動内容を積極的に発信するとともに、地区会の基盤である町内会・自治会の加入率の向上に努める。

(エ) 市民自らが意欲を持って地域活動に参加できるよう、一人一役運動を進めるほか、人材育成のための研修会を通して、地域を支えるリーダーづくりを推進する。

(2) 地域コミュニティ活動環境の充実

常磐市民センターにおける様々な活動環境の一層の充実に向け、施設の利用状況や地域の実情等にあわせたコミュニティルームの運営を推進するとともに、施設の利用者数や周辺の状況等を踏まえつつ狭あい駐車場の解消に努める。

(3) 地域防災活動との連携

災害発生時の初動対応については、地域における防災組織が重要な役割を担うものであることから、平常時より、地域での防災訓練への支援、地域における災害リスクや連絡体制の確認を行うなど、ランド常磐みんなでつくる防災ネットワークとの連携を図る。

2 生涯学習活動の推進

(1) 学習機会の充実

生涯学習活動の拠点施設である常磐市民センターにおいては、「個人の要望」する学習による生きがいづくりを進めるとともに、家庭教育への支援や青少年の健全育成、少子高齢化への対応などの「社会の要請」に応じた、現代的課題を取り扱った学習機会の提供に努める。

また、常磐市民センターの一般教養講座・教室・クラブ等、みと好文カレッジの事業を総称した『みと弘道館大学』が市民に親しまれ、生涯学習が市民のライフスタイルに定着し生涯にわたって学び続けることができるような学習機会の提供に努める。

(ア) 市民ニーズを捉えた学習機会の提供

市民の学習ニーズを把握し、健康で生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、生涯学習のきっかけづくりを図るとともに、それぞれの世代に合った学習機会の提供に努める。

(イ) 現代的課題を取り扱った講座の開催

変化の激しい社会情勢に対応していくために、成人学級、高齢者学級（常磐寿大学）等の講座に現代的課題を取り扱ったテーマを組み入れるなどの手法により、地域課題を主体的に捉える学習機会の充実に努める。

また、事業実践集を活用しながら、水戸市ランド常磐の会と常磐市民センターが一体となった協働事業を積極的に展開するよう努める。

(ウ) 家庭教育学級（常磐ふれあい学級）等の開催

家庭は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、思いやりや善悪の判断、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上で重要な役割がある。

これまでの常磐ふれあい学級の内容に加え、未就園児や小学校低学年を中心とする家庭教育の支援を強化し、家庭が本来果たすべき役割を見つめ直し、親の役割、子どもの心の理解、躰など家庭での教育について考え、学び合う家庭教育学級等を開催する。

さらに、茨城県教育委員会が作成発行している「家庭教育ブック」等を活用し、小学校との共催により、就学时健康診断や入学説明会などの機会を捉えた家庭教育講演会を開催し、家庭教育力向上に努める。

(2) 学習の成果を活かす環境づくり

生涯学習の成果がボランティア活動や地域づくりに活かせるよう支援し、常磐地域内の人材の発掘・育成を行うとともに、地域の活性化や特色あるまちづくりにつながっていくよう環境づくりに努める。

(ア) 地域資源の活用推進

市内には、歴史的な資産や史跡をはじめ博物館、歴史館などの文化施設、学校や大学などの物的資源やそれぞれの施設に所属する職員などの人的資源があり、豊かな地域資源に恵まれている。このような地域にある資源を活用した事業を開催するとともに、生涯学習の振興に取り組む機関や団体との連携を図りながら、地域資源の有効活用に努める。

(イ) 学習活動の成果を発表する場の創出

常磐市民センターを会場に開催している講座の展示会や発表会など、学習の成果を発表する場を創出することにより、学習者同士や参加者との交流を拡大させ、新たなネットワーク構築に努める。

(ウ) 学習の成果を地域活動に活かす仕組みづくり

生涯学習の成果をボランティア活動や地域活動に活かすことが、地域の活性化に大いに役立つものと期待されている。常磐市民センターで学んだ市民が、その成果を地域コミュニティ活動につながるよう人材の育成と活用に努める。

(エ) 事業評価に基づく事業の推進

常磐市民センターの講座や事業に参加した市民が日常生活の中で、学習の成果をどのように活かし、また、地域の中で、どれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。

常磐市民センターにおいては、実施した講座や事業について自己評価を行うとともに、自己評価をもとに、運営審議会等第三者機関による検証を行い、効果的な事業運営に努める。

(3) 学校、家庭、地域の連携の強化

学校、家庭、地域が目標や課題を共有し、それぞれが連携して対応策について取り組めるシステムを構築し、地域社会全体の教育力の向上に努める。

常磐市民センターにおいては、それぞれをつなぎ結ぶ地域拠点施設としての機能を十分発揮する。

(ア) 次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む

学校、家庭、地域が相互に連携を図りながら、様々な形で異年齢集団との交流や大人と接する事業など、子どもたちが直接体験する場を提供し、社会全体で次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む活動の推進に努める。

(イ) 社会全体で支える家庭教育

子どもたちが健全に成長していくためには、良好な家庭環境や社会環境を整える必要がある。そのために、家庭の教育力の向上だけでなく、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちの成長を温かく見守りながら、家庭教育を社会全体で支える仕組みづくりに努める。

(3) 平成30年度事業計画

○定期講座 平成30年5月～平成31年3月(8月休講)

①教室(4)

②ランド常磐の会生涯学習部事業(1)

③クラブ(30)

※詳細は10頁参照

○一般教養講座

講	月	日	曜日	内容	講師	場所
常磐 寿大 学	6	25	月	<閉講式> 「お薬の正しい使い方」	薬剤師 オーウェンズ 寛恵	常磐市民センター ホール
	7	30	月	「認知症予防のための楽しい脳トレーニング講座」	介護予防で日本を元気にする会 小城 俊之	常磐市民センター ホール
	9	25	火	からだ調整体操&シナプソロジー	シナプソロジー教育トレーナー 医学療法士 所 圭吾	常磐市民センター ホール
	10	23	火	「温泉と健康」	元茨城大学教授 日下 裕弘	常磐市民センター ホール
	11			<閉講式> 移動学習		
ふれ あい 学級	7	4	水	<閉講式> 朗読会	さくら前線お話の国	常磐幼稚園 遊戯室
	11	26	月	お正月かざりを作ろう	鹿志村 恵美子	常磐幼稚園 遊戯室
	1	29	火	<閉講式> 粘土でフォトフレームを作ろう	粘土作家 辻本 京子	常磐市民センター 会議室
サマ ー チャ レ ン ジ ス ク ー ル	7	31	火	親と子の料理教室	水戸市食生活改善推進員	常磐市民センター 調理室
	8	1	水	(3回シリーズ) 子ども将棋教室	日本将棋連盟水戸支部支部長 棋道指導員 鴨志田 稔	常磐市民センター 和室
	8	8	水			
	8	22	水			
8	3	金	絵画教室(小学1年生～6年生対象)	大森 利夫	常磐市民センター ホール	
セ ミ ナ ー 女 性	11	21	水	ポーセリンアート教室	大澤 喜代子	常磐市民センター 調理室
郷 土 史 講 座	6	23	土	ときわ歴史散歩 八幡宮から保和苑まで	小林 富雄	常磐地区
	11	26	月	郷土文学講座 古河市方面予定	茨城大学名誉教授 佐々木 靖章	

○催事関係

・ときわ夏まつり

月	日	期	内容	場所
7	28	土	子ども太鼓、子ども神輿、ふるさと音頭、花笠音頭、フラダンス、模擬店、ビンゴゲーム、花火大会、防災訓練、その他	常磐小学校

・常磐地区市民運動会

月	日	期	内容	場所
10	7	日	市民運動会（雨天時体育館）	常磐小学校

・ときわ春まつり

月	日	期	内容	場所
2	23	土	催事・展示・発表会	常磐市民センター
	24	日		

○関連行事

月	日	期	内容	場所
9	21	金	文化講演会	常磐小学校
10	14	日	常磐地区市民歩く会 千波公園到着後、スポーツフェスティバルへ自由参加～現地解散	常磐小学校 ～千波公園
11	10	土	常磐小学校一本杉ふれあいのつどい 教室・クラブ参加予定	常磐小学校 常磐市民センター

・郷土かるた大会

月	日	期	内容	場所
1		日	市制施行90周年記念作成のかるたを使用し、市内の自然や歴史・文化遺産を楽しく理解し、郷土愛を養う。	常磐市民センター

・いきいき健康クラブ（4月～3月、月3回、第2・3・4月曜日）

・元気アップ・ステップ運動（4月～3月）

・ランド常磐みんなでつくる防災ネットワーク事業（協力）

事業実施主体：ランド常磐みんなでつくる防災ネットワーク実行委員会

・常磐ふれあい給食（協力）

主催：常磐小学校

ねらい：水戸市は、給食の時間を食育指導や豊かな人間関係をつくる場とし、児童生徒の健全な発達のために、栄養とバランスのとれた安全、安心でおいしい給食を提供している。学校給食の試食を通し、地域や家庭と連携して、食育の普及啓発の推進を図るため、「常磐ふれあい給食」を実施する。

対象者：常磐地区住民等

時期：平成24年度より実施し、不定期 限定20食で実施する。

場所：常磐市民センター 会議室

時間：12：00～12：50分（食事の前に栄養士が、献立・食育等の話をする。）

○地区内各種団体活動支援（ボランティア団体を含む）

- ・各団体の活動を必要に応じて協力する

- ①ランド常磐の会及び各専門部
- ②ランド常磐の会構成の17団体

- ・ボランティア活動

- ①ときわふれあいであんわ（木曜日午後、金曜日午前）：常磐小学校児童の活動参加は5月より月2回実施
- ②ときわ子どもサロン（木曜日午前10時～12時）：常磐女性会
- ③図書室ボランティア（月・火・水・金午後2時～5時）：一般公募ボランティア5名

(4) 平成30年度定期講座募集状況について

H. 30. 5現在

No.	教室名	受講生		合計	前年度	増減	講師名(敬称略)	代表者名(敬称略)
			新規					
1	子ども将棋		26	26	25	1	鴨志田 稔	—
2	親子体操		14	14	19	-5	鈴木 真里子	堀川 利香
3	親子英語		12	12	14	-2	吉井 厚子	引田 奈央子
4	音楽とお話が 楽しめるサロン		20	20	19	1	—	加藤 辰雄
5	常磐歴史研究会		20	20	22	-2	—	小林 富雄
小 計			92	92	99	-7		

No.	クラブ名	受講生		合計	前年度	増減	講師名(敬称略)	代表者名(敬称略)
		継続	新規					
1	着付け	15	1	16	15	1	軽部 素子	坂本 由美子
2	ソフトエアロ&ストレッチ	15	2	17	22	-5	吉村 美智代	人見 明子
3	歌謡	14	0	14	19	-5	金沢 はるみ	加藤 昭
4	生け花(龍生派)	14	1	15	17	-2	内田 富子	宮田 光子
5	パッチワーク	9	0	9	11	-2	藤田 恵子	草野 京子
6	オカリーナ(B)	20	0	20	22	-2	須藤 真紀子	小柳 万里子
7	卓球1部	21	3	24	24	0	自主トレーニング	
8	卓球2部	15	3	18	19	-1	石田 芳美	村上 邦夫
9	ゴルフクラブ	22	0	22	24	-2	寺沼 幸雄	小野寺 良昭
10	ちぎり絵	0	0	0	8	-8	為我井 正明	
11	太極拳	33	7	40	39	1	薮 三代子	加藤 辰雄
12	スポーツ吹矢	11	5	16	16	0	國井 泰	大曾根 一己
13	ダンススポーツ(水)	17	1	18	18	0	作山 千枝子	荒川 友勝
14	フラダンス	6	0	6	10	-4	篠田 順子	大信 弘子
15	和裁	10	1	11	10	1	川崎 キイ	四倉 芙美
16	ハッピークッキング	9	3	12	19	-7	高杉 昭子	
17	なぎなた	15	0	15	17	-2	小野 信江	石川 靖子
18	ヨーガ	16	7	23	20	3	今橋 恵美子	清水 かほる
19	ウクレレ	19	4	23	25	-2	石田 芳美	田口 千秋
20	ダンススポーツ(木)	8	2	10	13	-3	浅野 鉄太郎	田中 一夫
21	ソフトエアロ&ストレッチ	14	6	20	17	3	藤来 真人	岩城 純江
22	オカリーナ(A)	17	0	17	19	-2	須藤 真紀子	高信 美穂子
23	茶道(表千家)	7	2	9	8	1	岡崎 宗香	小口 美千
24	レクリエーションダンス	14	0	14	14	0	池田 洋子	前野 百合子
25	フレッシュ体操	25	1	26	26	0	山家 美江子	川合 裕美子
26	囲碁	19	1	20	21	-1	飛田 道雄	下飯坂 豊
27	卓球(夜)	14	4	18	14	4	自主トレーニング	内田 芳彦
28	ときわコーラス	27	0	27	28	-1	山口 てる子	長谷川 富美枝
29	ウォーキング	32	3	35	39	-4	菅原 利満	磯畑 たつ美
30	書道	20	9	29	27	2	武藤 幹子	石岡 靖夫
31	フォークダンス	13	1	14	13	1	池田 洋子	坂本 豊子
小 計		491	67	558	594	-36		
合 計		491	159	650	693	-43		

市民センターにおける土曜執務体制の見直しについて

1 これまでの経過

全市民センターを対象に土曜利用実態調査を実施するとともに、地区会長及び市民センター運営審議会委員にアンケート調査を実施した。

年 月	取組内容
平成 29 年 4 月	土曜利用実態調査及び課題抽出（全市民センター）
10 月	土曜利用実態調査（全市民センター） 水住協役員会・理事会において趣旨説明及びアンケート依頼 地区会長及び市民センター運営審議会委員アンケート調査
11 月	アンケート回収
12 月～	アンケート集計及び課題整理等

2 土曜利用実態調査及び課題抽出について

(1) 対象者

市民センター長 31人（全市民センター）

(2) 調査内容

	調査項目	調査結果、意見・課題
1	土曜執務時の窓口来所者数及び来所目的	4月15日(土)平均3.15人(内:施設使用申請36%) 22日(土)平均2.70人(内:施設使用申請44%) 10月7日(土)平均1.54人(内:施設使用申請52%) 14日(土)平均2.90人(内:施設使用申請40%)
2	土曜開所のメリット	・平日来所困難者対応が可能 ・事務室不在時に施錠する部屋の使用が可能 (調理室・印刷部屋等)
3	土曜開所のデメリット	・一人勤務による防犯体制が不足する ・振替勤務により、平日勤務の人員が不足する
4	土曜閉所とした場合の問題点等	・平日来所困難者対応が不可能となる ・事務室不在時に施錠する部屋の使用が不可能となる (調理室・印刷部屋等) ・休日夜間管理人対応時間の増加 ・土曜開催の市民センター事業の継続

(3) 調査結果の総括

窓口来所者数が少数であることに加え、金銭を預かる窓口としての防犯体制や平日の勤務体制への影響など、土曜執務の見直しが必要である現状が確認できた。

ただし、事務室が不在となることに伴うサービスの低下を最小限に留めるために、対応策については十分な検討が必要である。

3 アンケート調査について

(1) 対象者

地区会長 32人
 市民センター運営審議会委員 172人（地区会長重複者を除く）

(2) アンケートの設問及び回答

回答率 79.4% (162/204)

	設問及び回答	意見（抜粋）
1	<土曜日窓口業務を行わないことへの変更について> ・変更はやむを得ない・・・・・・・・・・85.8% ・現状のまま継続・・・・・・・・・・9.3% ・その他・・・・・・・・・・4.9%	・隔週で対応してほしい。 ・変更が望ましい。
2	<毎週土曜日に事務室が不在となった場合、支障をきたすと思われる事案について> ・特に支障はない・・・・・・・・・・66.7% ・地域行事の際支障がある・・・・・・・・24.7% ・活動が維持できない・・・・・・・・0.0% ・その他・・・・・・・・・・8.0% ・無回答・・・・・・・・・・0.6%	・市民運動会等開催時には協力願いたい。 ・調理室の使用について、協議が必要（刃物・火気等） ・土曜日の会議時に、職員への問い合わせ等ができない ・図書コーナー利用者へ配慮をしてほしい。
3	<窓口業務を行わない時間の、市民センター利用希望について> ・コミュニティルームを活用したい・・32.1% ・コミュニティルームの鍵を預けてほしい・13.0% ・その他・・・・・・・・・・29.6% ・無回答・・・・・・・・・・25.3%	・コミュニティルームの運用を協議したい。 ・行事の支援は、引き続きお願いしたい。 ・部屋の貸し出しは継続してほしい。

(3) アンケート結果の総括

土曜日執務の見直しについては、概ね理解をいただけていると推測できるが、地区行事やコミュニティルームの利用方法等、市民センターの支援体制について不安の意見が寄せられていることから、見直しに伴う影響などについて、丁寧な協議と説明が必要である。

4 課題及び対応策

(1) 土曜利用実態調査における課題及び対応策

	課題	今後の対応策（案）
1	休日夜間管理契約時間の変更	契約時間変更に向けた協議
2	施錠している部屋（調理室・印刷機設置部屋等）の利用方法	各施設の実情に合わせた変更を検討
3	休日来所困難者への配慮（使用申請・ボランティア袋交付等）	・使用許可申請については郵送による申請方法を確立 ・その他の申請は、平日対応困難な事例を個別に検証
4	土曜開催事業の運営	運営方法の検討

(2) アンケート調査における課題及び対応策

	課 題	今後の対応策 (案)
1	地区行事開催時への対応及び行事への支援	地区行事開催時においては、職員振替出勤で対応 (現在も同様)
2	土曜日の職員への問い合わせ等	平日対応を前提とし、書類の提出等はポスト等の利用方法を整理
3	コミュニティルームの運用	各地区と各市民センターで、コミュニティルームの活用方法を検討
4	図書コーナー利用者への配慮	近隣図書館の案内を充実
5	効果的な周知方法	周知期間及び周知方法を検討

5 今後の予定

平成 31 年度からの土曜執務体制見直しに向けて、土曜利用実態調査等における課題への対応を行うとともに、各地区の実情に応じた協議を行う。